

[成果情報名] 新たに登録される「カンキツロ之津34号」の果実特性

[要約] 「カンキツロ之津34号」は果皮の赤味が強く、種子が少なく、糖度が高い新しい系統である。成熟期はハウス栽培で 1月上旬、露地栽培で 1月下旬となり、特にハウス栽培で外観、食味に優れた果実が生産できる。

[キーワード] カンキツ、糖度、ハウス栽培

[担当] 長崎果樹試・生産技術科

[連絡先] 0957-55-8740 電子メール s26700@pref.nagasaki.lg.jp

[区分] 果樹

[分類] 指導

---

[背景・ねらい]

独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所で育成された新系統「カンキツロ之津34号」の果実形質を調査し、本県への適応性を明らかにする。

新系統の来歴

系 統 名	交配組み合わせ		
	♀	×	♂
ロ之津34号	(清見・興津早生) × アンコール		

[成果の内容・特徴]

1. 果実は着果過多で小果になるものの適正な着果量であれば200～220g程度の大きさになる。果形指数120～130の扁球形である（表1）。
2. 果皮は橙～赤橙色で赤味は比較的強い方である。果面の粗滑、剥皮性とも中程度である。また、浮き皮果の発生はない（表2）。
3. じょうのう膜の厚さは中程度で、じょうのうの分離はやや容易。種子は1～5個程度と少ない。
4. 可食期は露地栽培で 1月下旬、無加温ハウスで 1月上旬である。糖度12～13で食味がよい。

[成果の活用面・留意点]

1. 平成19年度に命名登録される予定である。
2. 樹姿は露地栽培ではやや直立性であるが、ハウス栽培すると開張した樹形となる。
3. 特にハウス栽培で外観、食味に優れた果実が生産できる。
4. 着果はやや不安定で隔年結果性がみられるので、適正着果に心がける。また果頂部に比較的大きなネーブルを生じやすく、年によっては裂果の発生もみられるので、ネーブルの発生した果実は可能な限り摘果する。トゲはわずかに発生するが栽培上問題とはならない。

[具体的データ]

表1 果実の特性 (1)

	年度	調査 月 日	果形 指数	1 果 平均重 (g)	カー チヤート値	果皮厚 (mm)	果肉歩合 (%)	種子数 <sup>2</sup>	糖度	酸含量 (g/100ml)
露 地	2004	1. 20	124	199	9.1	3.2	78.2	1.0	12.4	1.18
	2005	12. 21	122	212	8.0	3.5	79.2	0.6	11.8	1.33
		1. 19	121	233	9.1	3.6	75.6	0.8	13.1	1.26
	2006	12. 20	134	150	8.2	2.1	82.2	0.6	12.9	1.48
		1. 18	131	155	7.7	2.4	79.6	0.4	13.9	1.41
	無加温 ハウス	2004	12. 20	131	204	10.7	3.1	78.5	0.4	11.3
1. 20			122	189	8.5	3.0	79.4	0.6	13.7	1.00
2005		12. 16	119	226	10.1	2.9	80.3	0.8	12.3	1.40
		1. 19	114	237	8.8	2.8	79.1	0.8	13.1	1.12
2006		12. 20	123	157	9.2	2.1	82.8	0.8	13.2	1.28
		1. 18	113	118	8.4	1.8	82.0	0.4	14.2	1.19

<sup>2</sup> 完全種子数を階級で調査 0:無種子 1:5粒以下 2:5~10粒 3:10粒以上

表2 果実の特性 (2)

色	果 皮			じょうのう		肉質
	粗滑	剥皮難易	浮き皮	分離難易	膜厚	
橙~赤橙	中	易~中	無	易~中	中	中



図1 「カンキツロ之津34号」の果実

[その他]

研究課題名：機能性に富む中晩生カンキツの高品質果安定生産技術の確立

予算区分：県単

研究期間：2004~2008年度

研究担当者：林田誠剛